



一般社団法人 日本LD学会

会報 第95号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

主な記事

<特集>

・第24回大会（佐賀）報告

<連続講座>

・発達障害教育における合理的配慮
・ICTについて

<お知らせ>

・第25回大会について
・年度会費の変更について



日本LD学会佐賀大会の帰り路に

国立特別支援教育総合研究所

涌井 恵

10月の日本LD学会佐賀大会の帰り路、ふと、お店のディスプレイに足を止めました。赤と緑の何かが目にチラついたのです。なんとクリスマス商品の飾り付けの最中でした。隣にはハロウィンのお菓子も並んでいます。クリスマスはすっかり日本に定着しましたが、ハロウィンも認知度が上がってきたように感じます。これ以外にも種子島の火縄銃など、つくづく日本人は外来のものを取り入れ、独自に発展させるのが上手いなと思います。

佐賀大会ではジョン・マンドルフ氏に学びのユニバーサルデザインについての特別講演を頂き、大変刺激を受けました。運動靴には様々なサイズが用意されていることや自動車の運転席の高さは様々な体格に合わせて調整可能であることを例に挙げながら、一つの指導方法をクラス全員に当てはめようとするの理不尽さを説明されました。

ところで、日本の着物や風呂敷は、様々なサイズに対応可能なものです。実は、日本人は古くから一人一人の違いに対して機微を働かせていたの

ではないでしょうか。輸入物の火縄銃を独自に発展させたように、ユニバーサルデザインな学びや授業についても、LD学会の英知を集めれば日本ならではの感性で、きっと、さらに発展させていけるのではないかと、そんな希望が湧いてきます。

そしてもう一つ頭をよぎったのが、1964年東京オリンピックのこと。当時90数カ国から集まる外国人選手が会場に辿り着けるように、全競技種目や、トイレや公衆電話等の公共施設や設備を表すピクトグラム（絵文字）を世界で初めて体系的に作成したとのこと。これは高い評価を受け、その後のオリンピックでも開催各国がそれぞれにデザインを変化させて受け継いでいます。元はヨーロッパで生まれたピクトグラムは、日本で大きく発展したのです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックはきっと教育界だけでなく、広く世間に、世界に、ユニバーサルデザインの考え方や障害等を含む人間の多様性への理解が広がる契機となるでしょう。あと5年。ぜひ、学会誌や会報等を通じ、会員間で実践や研究を深めていきましょう。